SecDogo Digest 第5号

2025年3月8日 土曜日

講演③

「パソナグループにおける DX の取組みとセキュリティ対策」というテーマで 河野 一 氏（株式会社パソナグループ 専務執行役員 CIO グループ DX 統括本部長）、西本 逸郎 氏（株式会社ラック 技術顧問）による講演が開催されました。

河野 一 氏

西本 逸郎 氏

講演前半は、河野氏から「誰もが健康でイキイキと活躍できるウェルビーイングな社会の実現」というテーマでお話しをされました。

まず、株式会社パソナグループの取組の一つである、本社機能の淡路島への移転が紹介されました。生き方に対する豊かさや夢のある新産業の創造を目的に実施され、現在は 2000 人もの社員が淡路島で働いています。また、DX 化を進めるうえで必要な事項、人材育成として半年間のプログラムを実施した際の効果、パソナの通信・ネットワーク環境について抱えている課題へのセキュリティ対策についてご紹介いただきました。生き生きと働ける職場環境の実現のためにはこれらの DX 人材育成とセキュリティ対策強化が重要であると述べられました。

後半は、西本氏との掛け合いが行われ、地域や地方ではどのように発展・維持していくかが課題であると示した上で、パソナはその課題をどのように克服したのかといった疑問をはじめ、多くの疑問が投げかけられました。河野先生はそれらの疑問に関して丁寧にご回答をされていました。

ランチセッション

「多層防御で実現するメールセキュリティの新時代」というテーマで 加瀬 正樹 氏 （株式会社 TwoFive CTO）による講演が開催されました。

加瀬 正樹 氏

講演では、まずメール利用の変遷について触れ、ビジネスからプライベートまで、メールの利用形態が多様化していることが述べられました。特にビジネス利用では B2B や B2C における通知や広告、社内外の連絡においてメールが重要な役割を果たしていますが、近年では SNS やチャットなど他の通信手段も増えてきているため、メールの使われ方が変化しています。

こうした変化に伴い、メールセキュリティ対策については、受信側だけでなく送信側でも対策を講じる必要性があると強調されました。具体的な対策として、「なりすまし攻撃」「EAC（アカウント不正利用）」「スクワッティングドメイン攻撃」「マーケティング攻撃」の 4 つを挙げ、それぞれにおける具体的な対策技術や運用方法を紹介いただきました。

メール送信時の留意点として、Google や Yahoo（米国）などが策定したメール送信ガイドラインの新基準を紹介し、DMARC の設定、購読解除の明示、スパム率の低減といった具体的な要求事項が示されました。また、M3AAWG（Messaging Malware Mobile Anti-Abuse Working Group）が策定している送信者向けベストプラクティス（Sender BCP）における送信ドメイン認証対応や送信サーバの適正化、電子署名認証などの重要性も紹介されました。

最後に加瀬氏は、メールは決して死んでおらず、むしろ今後も重要な通信手段として存続することから、適切かつ積極的なセキュリティ対策の実施を呼びかけて講演を締めくくられました。

ランチセッションに参加された方には、メイン会場とサテライト会場でお弁当が配膳されていました。おいしそう！

お弁当

講演④

「複雑で難しいサイバーセキュリティを単純明快にする～断片的な情報を図解することでつながる理解～」というテーマで 佳山 こうせつ 氏 （東京電機大学サイバーセキュリティ研究所／Ridgelinez 株式会社）による講演が開催されました。

佳山 こうせつ 氏

サイバーセキュリティは高度化・複雑化し、組織の中における専門家と非専門家の間で理解の乖離が生じる傾向があります。この講演では、情報の断片化がセキュリティ対策のハードルを高める問題に着目し、図解を用いて全体像を可視化する手法や実例からの今の時代の教訓、その教訓からのアプローチ案が紹介されました。

まず、セキュリティの基本的な捉え方として、単なる防御ではなく、事業継続の土台としての重要性が強調されました。事業の変革や社会全体のデジタル化が進む中、セキュリティは単独で存在するものではなく、業務プロセスや経営判断と密接に結びついていることが示されました。

また、図による複雑さの俯瞰を解説され、各省庁が提供するガイドラインの意義についても触れられました。特に、金融庁の監査指針等及び金融分野におけるサイバーセキュリティに関するガイドラインは、金融に直接的に関わっていない我々でも読むべきガイドラインとして紹介されました。

次に、最新の事例をもとに、医療機関へのランサムウェア攻撃や、企業の対応事例が紹介され、今の時代の教訓として、被害が顕著化されるにつれ、その実情を知ることの恐ろしさ、また個別の対応ではなく、組織全体としてセキュリティを考える重要性が強調されました。 そして、教訓から導く今の時代のアプローチが提案されました。組織全体の感度を高めるための人材の強化は対象によって異なる視点のセキュリティ定義が重要であること、業種ごとの特性を考慮しつつ、現場と経営層の間のギャップを埋めるための施策、リスクコミュニケーションの手法、脅威モデリングの活用などが紹介されました。

最後に、「ひと＋プロセス＋技術」の視点から個人ではなくみんなで考えるセキュリティを実現することが重要であると締めくくられました。

ナイトセッション総括パネルディスカッション

司会の森井昌克先生と各座長により、昨晩開催されたナイトセッションの総括が行われました。

各ナイトセッションの振り返り後、森井先生によってセキュリティに関する課題の振り返りや、学生や社会人も博士号を取るという考えをぜひ持っていただきたいというお話がありました。最後に、野田氏がセキュリティをわかりやすい言葉で語り、専門家のいない中小企業へ届けて欲しいとおっしゃられました。

閉会挨拶

本大会の副実行委員長 村上 理一 氏 により閉会の挨拶をいただきました。オンラインを含め全国から５００名を超えるご参加をいただいたとのことです。来年もまた皆様にお目にかかれますことを楽しみにしていますとご挨拶されました。

村上 理一 氏

SecDogo Digest の編集について

SecDogo Digest の編集は以下のメンバーで行いました。

石井淳也、岡巧人、北野敬、白江颯太、長町悟志、中山智暉（愛媛大学工学部工学科 3 年）

西脇 弘輝、丸岡 惇（愛媛大学工学部工学科 4 年）

森 創太（愛媛大学大学院理工学研究科 1 年）

甲斐 博（愛媛大学）

曽根 直人（鳴門教育大学）